第１２回源内賞の授与式での謝辞

徳島大学教授　任　福継
２００５年３月２５日

おはようございます。

ご紹介頂いた徳島大学工学部教授の任福継です。

本日，第１２回源内賞を受賞頂き，非常に嬉しくて，大変光栄なことと思っております。

ここに，今回の源内賞，源内奨励賞，貢献賞等の受賞者を代表して，財団法人エレキテル尾崎財団，源内賞選考委員会の皆様，さぬき市教育委員会の皆様，事務及び関連関心の皆様に心からの感謝を申し上げます。

エレキテル尾崎財団が１９９３年設立されてから，平賀源内の遺業をたたえ，発明工夫の思想の啓発普及に努めるとともに，電気・通信技術等の研究に関する助成を行い科学技術の向上に資することに大きく貢献なされております。

２１世紀は情報社会と言われております。日本では「２００５年に世界最先端のIT国家となる」という目標により，２００１年にスタートしたe-Japan戦略の下で情報インフラの整備が進められ，２００３年には計画を前倒ししてe-Japan戦略IIがスタートしております。この第２期計画では「IT活用による“元気・安心・感動・便利”社会を目指す」ことが目標とされており，社会での情報インフラの本格的な活用が計画されております。このような“元気・安心・感動・便利”社会を創るには，「感情」「感性」というキーワードを避けては行けません。今回受賞のテーマである「スーパー関数による言語処理及び感情インターフェースの構築」については，来るべきコミュニケーション・ビジネスの発展のために，日本からの発信として，国際社会に大いに貢献できると同時にe-Japan戦略IIの実現には大きく寄与することができると考えております。

今回の受賞は我々の研究を強くサポートしているものであり，我々に大きな激励を与えると同時に，新しい活力と強いパワーを与えております。

これからも，源内賞の栄誉に恥じぬよう，いっそうの努力を続けてまいりたいと思っておりますが，どうぞ引き続きご鞭撻ご指導の程お願い申し上げます。

簡単ながら，受賞の謝辞とさせていただきます。

どうも有り難うございました。

（当日の録音による整理。）